

OG紹介



中国電力健康保険組合
曾根麻美さん：平成19年度入学生
言語文化プログラム

◆ 現在の仕事内容を教えてください

現在は中国電力健康保険組合というところに勤務しています。実は転勤したばかりで今の職場の職務内容についてはあまり理解していない状況なので、転勤前の職場についてお話しします。以前は、中国電力株式会社の岡山営業所に勤務



していました。大きな会社なので色々な部署があつて、その中に営業の部署があります。私は、その営業担当者のサポートをする仕事をしていました。具体的には、部署毎の営業実績の集計などを主に担当していました。

中国電力株式会社仕事には技術系と事務系がありますが、入社後新入社員は数年ずついくつかの部署をローテーションします。それにより将来的に所属する部署の適正判断をするわけです。私は今の職場が三カ所目です。

◆ 仕事のやりがいは何ですか？

サポートの仕事ということで、実際に大きな契約を取ってきたり接客対応をしてお客さんの声を聞いたりすることはないため、目に見えた成果はなく、分やりがいは感じにくかったと思います。ただ、転勤が決まった時に、営業担当者の方々から頼りにしていたよと声をかけてもらい、頑張ってきて良かったなと思いました。

◆ 曾根さんの就職活動のエピソードをお聞かせください。

就職については部活を引退してから本格的に考え始めたので、焦ったり苦労したりもしました。部活をやってなくて早くから就活の準備をしている人は、やはりそれが強みにもなっていたのだと思います。



ただ、体育会で部活をしていたという点にはどの企業でも好印象を持たれるように感じました。グループ討論形式の面接でも、身の振る舞い方などは体育会で自然に身に付いていたのでやりやすかったです。このような意味でも、部活を続けてきて良かったと思っています。

◆ どうして総合科学部を選んだのですか？

高校生の時、大学で行われた体験授業を受けました。その時に講義をされていた佐藤正樹先生との出会いがきっかけです。話し方や、学生への気配りができるところに憧れて総合科学部を選びました。当時は学部長をされていたので授業を受けることはできませんでしたが、入学後にお話する機会があり、先生に憧れて入学したことを告げることができた時には感激しました。

◆ 学生時代にはどのようなことに打ち込んでいましたか？

バスケットボールです。体育会バスケットボール部に所属していました。小学校からバスケットをしていて、広大のバスケット部はバスケットボール界では有名だったということもあり、ずっと憧れていました。広大に入りたいと思ったのもバスケット部の存在が大きいです。チームには実績のある人もいて、練



習についていくのに必死でしたね。いいチームだったと思います。卒業後も、大学時代のつながりで広島に拠点を置くクラブチームに所属してバスケットを続けていました。

◆ やってあげればよかったと後悔していることはありませんか？


留学はしておけばよかったと思います。行くとしたらアメリカに行きたかったです。言語文化プログラムで英語専攻だったので周りの友達は留学している人が多かったし、プロのバスケットボールリーグもありますからね。留学よりも部活と思ったというのは留学しなかった大きな理由ですが、部活をしている人でも留学した先輩はいたので、部活生でもぜひ留学してほしいです。卒業後にアメリカへ行く機会があったのですが、その時に学生時代に異文化に触れるという経験しておけばよかったと本当に後悔したことを覚えています。

◆ 学生時代に苦労したことはありませんか？

週6日の部活がある中で、勉強との両立はなかなか大変でした。

◆ これからの目標を教えてください

仕事に関してだと、大きな企業ということもあって本当に色々な



職種があります。新入社員のローテーション制度以外にも転職は多いです。だからこそ、自分が割り当てられた職場に早く自分を順応させ、早く目標を見つめたいと考えていますし、それが企業側から求められている能力でもあると思います。

また、女性としてこれから様々なイベントを乗り越えていかなければいけません、仕事は続けていきたいと考えています。家事と仕事は両立させたいですね。

◆ **総合科学部の学生へメッセージをお願いします。**

体育会で部活をしていたこともあり、学部と同級生との交友関係が狭かったのが心残りです。総科の人は個性的な人が多くて、みんな色々なことに興味を持っていますよね。それは、今思えばとても素晴らしい環境だったと思います。良い機会だと思って、色々な人の懐に飛び込んで、色々な人の話を聞いて、自分の幅を広げていくということに主眼をおいて学生生活を送ってほしいなと思います。

【担当】 26生 網野 瑞貴

26生 前田 絵礼奈

